報告

コミック原作実写短編映画のプロデュース成果

Report on the Results of Pproducing a Live-action Short Film Based on a Comic

真田 静波 SANADA Shizuha

デジタルハリウッド大学大学院 メディアサイエンス研究所 吉村研究室 研究員
Digital Hollywood University, Graduate School,
Media Science Institute, Yoshimura Laboratory, Researcher

本稿では、2022年6月からデジタルハリウッド大学大学院修了課題制作作品として企画・プロデュースを行った日本のコミック原作の実写短編映画『ストレンジ』(2023年2月)製作プロジェクトのプロデュースの成果について報告する。本稿は本篇完成後から2024年7月時点までの成果報告を主にまとめた。完成した作品は「SHORTSHORTS FILM FESTIVAL & ASIA 2023」にノミネートされ、Most Viewed Awardを受賞。「Shorts Miami International Film Festival 2024」では最優秀賞を受賞。ほか「Hawaii International Film Festival 2023」、など国内外の各種映画祭にノミネート、上映された。

1. はじめに

1.1 著者の経験

高校時代より美術やデザインを学び、進学したデジタルハリウッド大学では学業と並行し、スタートアップ業界にてApp開発に従事。在学中の起業経験や卒業後フリーランスのデザイナー、プランナー、プロデューサーとして経験した様々な事業サポート、イベント企画などを通じ得た経験を大学院ではどう研究に活かすべきかと悩んでいた中で最も興味を惹かれたのは、自身が普段から愛する世界中のエンターテイメントやIPコンテンツに対するビジネスアプローチだった。

1.2 修了課題制作作品としての映画プロデュース背景

吉村毅教授率いる日本IPグローバルチャレンジラボに在籍し、IPコンテンツにおける国内外メディアミックスについて研究を行っていたことを機に、2022年6月頃より落合賢特任准教授指導のもと修了制作課題としてコミック原作による実写短編映画の企画・プロデュースを行う運びとなった。

当時、本学院では原作付き作品の実写化を個人で行った例がなく、初の試み且つ自身が経験したことのない業界に不安とプレッシャーを感じながらも、大切な原作を預からせて頂く身として、丁寧に向き合い創り上げていくことを徹底してプロジェクトを開始した。

1.3 実写化にあたって

本作の原作である『ストレンジ』[1]は漫画家つゆきゆるこ氏の短編コミック集であり、男性同士の友情を主としたオムニバス作品である。『このマンガがすごい! 2018』オンナ編第8位[2]のほか「文化庁メディア芸術祭 第21回 マンガ部門 審査委員会推薦作品」[3]に選出されており、日本以外にもスペインやイタリアなど複数国で翻訳版が発行されている作品である。原作権利取得のための作品候補を探す中で、予てよりファンであった作品にアプローチし、企画の中での第一関門である権利取得を行えたことはプロデューサーとして自身の第一成果となった。

本作は表題となっている『ストレンジ』の実写短編映画化権利を取得した。脚本・監督は映画監督として活躍する落合賢氏に依頼。2023年2月に15分の短編映画本篇が完成した。

1.4 作品情報

完成した作品の情報は以下である。

表1：作品情報

作品名	ストレンジ
英題	STRANGE
上映時間	15分0秒
ジャンル	LGBTQ+、ヒューマンドラマ、ファミリー、青春
完成年月	2023年2月
あらすじ	塾に通い、勉強漬けの日々を過ごす内気な高校生のオデコちゃんが出会ったのは、夜の公園で涙を流す、ドラァグクイーン姿のクマさんだった。交流を重ねるうち、もがきながらも自分に正直に生きようとするクマさんの姿勢は、次第にオデコちゃんにも変化を与え――。
脚本・監督	落合賢
企画・プロデューサー	真田静波
原作	つゆきゆるこ『ストレンジ』(リイド社刊)
主演	荒木飛羽、ドリアン・ロロブリジーダ
主題歌	THE CHARM PARK「フシギ」(StyleBook)
製作	デジタルハリウッド大学大学院、WOS
制作	フォトシンス・エンターテイメント

2. 宣伝戦略

2.1 SNSを活用した情報解禁

本作プロジェクトでは「X(旧Twitter)」[4]「Instagram」[5]「公式Webサイト」[6]を主軸としたプロモーション展開を行い、実写版としての知名度の向上を目指した。

フォロワー数はX、Instagramそれぞれ1000前後ではあったが、出演者やメディア、インフルエンサーのリポスト等により常に1万以上のインプレッションを獲得することができた。

2.2 クラウドファンディングでの資金調達

制作費の補填とクオリティアップを目的としたクラウドファンディングは2022年12月1日に開始。開始日に出演者の情報解禁プレスリリースを行い、関係者それぞれのSNSより誘導協力を頂き、30日間という短期間ながらも目標額を無事に達成した。

図1：クラウドファンディング目標金額達成

2.3 メディア露出を用いたプロモーション

既に原作に知名度があることから、2022年11月より実写映画化の情報解禁を行った。目的は以下の３点である。

（1）実写化にあたっての知名度向上
（2）各種公式SNSのフォロワー獲得
（3）クラウドファンディングへの誘導

第一弾では実写短編映画化と監督発表、第二弾では出演者の発表とコメントと、情報を徐々に解禁したことにより「コミックナタリー」「マイナビニュース」をはじめ、ボーイズラブ作品特化メディア「ちるちる」やLGBTQ+系メディア「newTOKYO」などにも掲載頂き、X（旧Twitter）でも反響を呼んだ結果、タイのメディア「BLtai」[7]でも記事化され、国を超えて期待する声が届いた。

特にキャスティングについては役者歴の長い俳優や、現役ドラァグクイーンがドラァグクイーン役を演じるという点に注目が集まったと当時感じ、その流動はクラウドファンディングページだけではなく作品完成後の試写会や映画祭出品へと影響した。

2.4 上映会

作品の完成披露試写会を2023年５月25日に東京都渋谷区にあるユーロライブにて行った。注目度を高めるため、上映会の約１カ月前に渋谷区で行われていた「東京レインボープライド2023」で名刺サイズのミニフライヤーを配布し、SNSでの拡散や公式SNS企画である「完成披露試写会ご招待」募集への誘導を図った。結果200件を超える応募があり、実りある企画となった。

試写会では関係者をはじめ、クラウドファンディング協賛者、各業界のインフルエンサーや公式SNS企画で当選した一般客、メディアを招待。また、当日足を運べない方へ同時中継のオンライン配信も実施。来場者と配信視聴者を合わせ260名以上の動員となった。

当日は監督、プロデューサー、出演者３名が舞台挨拶を行い、本篇とメイキングの上映の後、監督と出演者、MCによるインタビュー形式のトークセッションを開催。この企画により「中日新聞Web」「スポーツ報知」「サンスポ」「日刊スポーツ」「マイナビニュース」「gla-d xx」「fjmovie.com」などのメディアで記事掲載や映像配信が行われ、知名度の向上や話題性としては満足のいく結果となった。

図2：キービジュアル

図3：公式SNSで実施した企画

3. 映画祭ノミネート

3.1 アジア最大級の短編映画祭での受賞

本作で、真っ先に応募したのはアジア最大級である短編映画祭「SHORTSHORTS FILM FESTIVAL & ASIA 2023」だった。有難いことにライブアクション部門にてノミネートされ、2023年６月に開催された映画祭期間で２回の上映と共に有料オンライン配信が同時に行われた。「キネマ旬報」にも注目作として掲載される[8]。後日、これまでのプロモーション活動がつながり、オンライン配信で最も視聴された作品としてMost Viewed Awardを受賞。これにより同年９月に行われた「SHORTSHORTS FILM FESTIVAL & ASIA 2023 秋の国際短編映画祭」にて再上映されることとなった。トークセッションにはプロデューサー、出演者２名が登壇し、出演者のファンである観客からは歓声が上がった。

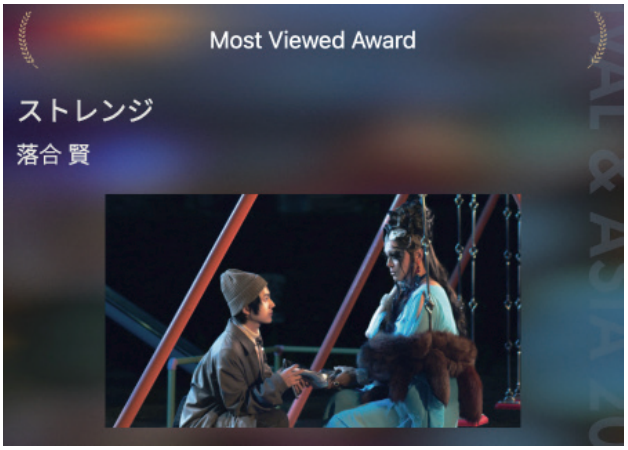

図4：SSFF2023での受賞

3.2 国内外映画祭でのノミネート

アメリカ合衆国では「Newport Beach Film Festival 2023」「Hawaii International Film Festival 2023」などの映画祭でノミネート頂き、映画祭期間中には落合監督が現地参加した。

国内では「第18回 札幌国際短編映画祭」にノミネート、「別府短編映画祭2023」では招待を受け、出演者のトークセッションと共に単独上映回として編成頂いた。本作では初の単独上映であり、今後単独での上映を行った場合に参考になる機会となった。これまで国内は関東圏内での映画祭上映が多かったため、地方での上映機会を頂けたことも有り難く、また都内から鑑賞しに来たという方もおり関心度の高さを感じた。

2024年2月に開催された「Shorts Miami International Film Festival 2024」では本作初の最優秀賞を受賞。本作のロケ地である藤沢市はマイアミビーチ市と姉妹都市提携を結んでいることからも、縁のある映画祭での最優秀賞受賞は作品としても光栄な結果となった。

3.3 クィア映画祭でのノミネート

本作の特徴的な点は、内気な高校生とドラァグクイーンの友情と成長の物語であることだが、特にドラァグクイーン役を現役で活躍しているドラァグクイーンが演じている点である。ご本人が公表しているジェンダー・セクシュアリティとも一致する役を演じるという事例はまだ日本国内では少なく、国内外問わずクィア系作品としての注目度は高いのだと実感した。

日本の「第31回 レインボー・リール東京～東京国際レズビアン＆ゲイ映画祭～」をはじめ、アメリカ合衆国内では「Reeling 2023: The 41st Chicago LGBTQ+ International Film Festival」「2023 Reel Q: Pittsburgh LGBTQ+ Film Festival」などと、オーストラリア「Queer Screen's 31st Mardi Gras Film Festival」、イギリス「Queer East Festival 2024」への招待を含め2023年～2024年5月頃までに開催されたクィア映画祭には計7回ノミネート頂き、各国で上映された。

図5：映画祭受賞・ノミネート一覧

4. 今後の展望

本プロジェクトが走り出してから2年以上の月日が流れ、本作は色々な方からのご協力や応援があったからこそ多くの方に鑑賞頂けたと実感している。自身が初の業界、作業であった中、どうにか形にし届けた本作は映画ライターのレポートだけでなく、一般の方から投稿されるレビューでも評価が高く、本作を通じて伝えたいメッセージや関係者の真摯さが伝わった結果だと考える。また、本作はLGBTQ+を題材としていることから、専門として活動されている方複数人にもご協力頂き、知識や表現指導をはじめ、これまで認識していた価値観を改めて見つめ直すきっかけとなり、素晴らしい機会を得ることができた。結果として昨今話題に上がりがちな炎上問題になることもなく、当事者の方々からも温かく受け入れられることに成功した。

プロデュースする中でのリスクとして常に抱えている問題の一つでもあるため、引き続き発信者としての自覚をもって丁寧な活動を続けたいと考える。

今後の展望としては、引き続き映画祭への出品や上映会の機会を設けつつ、所属する韓国カルチャー＆ビジネス研究ラボを軸に韓国、中国をはじめとしたアジア圏への本作展開や更なるメディアミックスができるよう努めたい。また、デジタルハリウッド大学大学院での修了課題制作としての映画制作は初めてだったこともあり、今後修了課題制作で映画制作を選択する学生への参考事例として活用して頂き、より素晴らしい作品が生み出されることを期待する。

参考文献

[1] つゆきゆるこ:『ストレンジ』リイド社(2017年).
[2] トーチweb:"トーチweb ストレンジ" https://to-ti.in/product/strange_top (参照2024年8月2日).
[3] 文化庁メディア芸術 JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL:"ストレンジ" https://j-mediaarts.jp/award/single/strange/index.html (参照2024年8月2日).
[4] X(旧Twitter):"ショートフィルム『ストレンジ』公式" https://x.com/strange_sfilm (参照2024年8月2日).
[5] Instagram:"ショートフィルム『ストレンジ』公式" https://www.instagram.com/strange_sfilm/ (参照2024年8月2日).
[6] ショートフィルム『ストレンジ』公式サイト:"TOP" https://www.strange-sfilm.com/ (参照2024年8月2日).
[7] BLtai:"WATCH: Yuruco Tsuyuki's “Strange” Gets Short Film Live Adaptation; Stars Towa Araki & Durian Lollobrigida - BLTai" https://bltai.com/japan/watch-yuruco-tsuyukis-strange-gets-short-film-live-adaptation-stars-towa-araki-durian-lollobrigida/ (参照2024年8月2日).
[8] キネマ旬報:『キネマ旬報 6月下旬号』キネマ旬報社(2023年) 108-113頁.